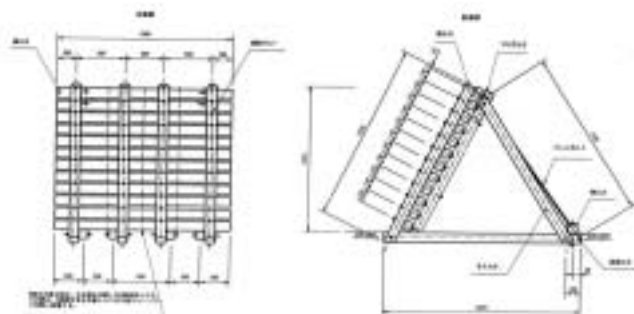


事例No.25

事業名	予防治山事業	事例キーワード 間伐材の利用、植樹、多孔質護岸
事業担当機関	仙北地域振興局 農林部 森づくり推進課	
事業期間	平成12年	
実施場所	仙北郡 田沢湖町 生保内 肘掛	
事業概要	全体事業費	21百万円
	工事概要	流路工（木製） 延長 175.0m 幅員 5.0m 高さ 1.0m
	事業の目的	当地区は、大雨等により土石流が発生し多量の土砂が流送され溪床に堆積している。また、渓流の乱流によって溪床の低下、溪岸浸食が繰り返され崩壊が拡大し、下流域に多量の土砂が流出している。 当事業は、治山ダムや流路工の整備により土石流等による土砂災害から住民の生命・財産を保護するとともに、溪畔林や沢沿いの樹木（森林）を保全・復旧したものである。
環境配慮の内容	1. 流路工を木製にすることにより空隙ができ生物が生息しやすい環境を確保した。 2. 森林と渓流が分断され、動物が移動する際の障害にならないよう横木に隙間をあけるなど、昇降しやすい構造となるよう配慮した。 3. 地元の間伐材を積極的に活用し、自然景観と調和のとれた工法とした。 4. 伐採を行う作業区域は最小限とし、景観の保持のためにも既存植生は可能な限り残した。 5. 作業時に残存木を傷めないように配慮した。 6. 木製フトン籠を設置することにより、溪床の不安定土砂の移動を押さえ、その詰石により空隙ができ生物が生息しやすい環境になるよう配慮した。 7. 現場での作業に際し、工事関係者と事前の打ち合わせを行い、事業区域内の自然環境の取り扱いについて認識を周知させた。	
の施 状 工 況 後	1. 木製流路工により溪床・溪岸が安定している。 2. 緑化工の施工地に在来の植生種が入ってきており、自然と一体化している。 3. 溪床内にも在来種が植生し、それにより溪床内に適度な淀みができ、水生生物の生息環境が整ってきている。	

図面、写真、説明

 簡易L型土留
 正面図（左）
 断面図（右）


完成時の写真（H13・12）



現在の状況（H16・6）